

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2020.3.1 アオヤマオイコスノモス 第25号

経済学部同窓会設立20周年特集

経済学部同窓会20年を振り返って

常任幹事 室伏 孝一
(初代幹事長：1954年卒)

経済学部同窓会が発足して20年が経過しました。経済学部は1949年（昭和24）に旧専門学校から新制大学の商学部商学科として発足し〔第2部は1950年（昭和25）からで現在は解消〕1953年（昭和28）に経済学部経済学科と商学科と改称になり、商学科は1966年（昭和41）に経営学部に移行しました。現在は経済学部経済学科と現代経済デザイン学科となっています。

経済学部同窓会は、1994年（平成6）大学同窓祭が開催されると同時期に、1954年（昭和29）前後数年の卒業生有志が中心となって同窓会発足の狼煙を上げて準備を始めました。その後1998年（平成10）に設立準備委員会を設置、運営・会則などを検討して翌1999年（平成11）9月23日の大学同窓祭当日に同窓会を設立しました。初代会長に榎本弘（1954卒・元経済学部長歴任）、幹事長に室伏孝一（1954卒）が就任しました。発足当初は卒業後50年のホームカミングデーを設定することを大学に具申し実行にこぎつけました（その後卒業25年のシルバージュビリーも行われる）。既に同窓会を起ち上げていた学部・学科はありましたが、同窓会の先駆者の一員として2019年（平成31）3月現在経済学部卒業生は48,663名となり、2020年（令和2）の卒業生を加えると5万名に迫る同窓会員（アクティブ会員・一般会員合わせ）は各同窓会の中では最大となります。

発足当初から、同窓会活動を円滑にするため、アクティブ会員を募り、年会費3,000円、終身会費30,000円を決めて全国の同窓生に向けて発信し運営可否を募りました。この企画は発足時

役員の在学時代の部活動やアドグルでの部員・知己を中心に勧誘し、初年約2,000名の応募で約1,000万円の資金を得て活動が開始されました。現在までに学部・経済学会との連携で学界・財界著名人を招いての公開講演会、会員相互の親睦と社会見学、学生の支援として就活、ゼミ対抗コンテストの支援、広報としてホームページとオイコスノモス（oikos・nomos）と名付けた会報誌の発行（2019年まで24号）を行っています。

アクティブ会員の納入会費は現在、年会費3,000円（卒業初年度は1,000円）、30歳未満者は5年会費10,000円、55歳までの方で10年会費20,000円、55歳以上の方は終身会員として30,000円の制度を会則の中に追記しています。

学生への支援活動の給付奨学金については、チャリティーゴルフコンペや懇親会開催の折に会員からの寄付と、年会費の中から捻出し2019年までに34名、合計510万円を計上しています。また、ここ数年箱根駅伝の応援拠点（品川・八ツ山橋、箱根小涌園）を経済学部同窓会が受け持ち優勝への一助も担っています。

経済学部は2019年で創立70年に当たり、12月21日に記念講演会を同窓会も賛助して開催されました。今後もアクティブ会員の増強と学部と連携して学生の支援を給付奨学金を含めて活動を続けて行くこととなりますのでご支援を願う次第です。（敬称略）



(左) 2000年5月15日に発刊された
会報誌「オイコスノモス」第1号

会報誌「オイコスノモス」

〔Oikos〕とは家計、家政の意味で、古代ギリシャにおけるポリス（都市国家）の経済の最小構成単位とも呼べるものです。

〔Nomos〕は規制、規範、きまり、術などの意味を持っています。それ故、「オイコス・ノモス」は家政術、家計術の意味を持っています。

青山学院大学経済学部同窓会を一つのオイコスとみだてて、そのノモスを守りながら発展させていこうということを、同窓会のニュースレターの名称にこめました。

「OIKOS NOMOS」の提起者は石井信之常任幹事（初代副会長：1966年卒）

経済学部同窓会 歴代会長

初代会長	榎本 弘
第2代会長	森 啓
第3代会長	天野 知恒
第4代会長	太田 義男
第5代会長	柳田 武好
第6代会長	松田 節男